

# 一般質問発言通告書

発言順位 12番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和4年6月7日

三島市議会議長 川原 章寛 様

三島市議会議員 18番 土屋 利絵

質問事項1	ヤングケアラーの問題について
具体的内容	家族同士での助け合いは当たり前だという意見もその通りだと思いますが、学校に行けなくなってきたり、精神的に一人で抱え込んでいたり、睡眠時間なども削らなければならなくなったり、一定のレベルを超えるようであれば、大人の助けが必要です。子どもたちに手を差し伸べる見極めが非常に大切だと思います。これからますます家族の単位が縮小していく時代、また精神疾患を持つ人、持病を持つ人が増えていくことが考えられますので、子どもたちが介護要員として働かなくてはならない、いわゆるヤングケアラーも増えていくことを念頭においておかないといけません。
1	ヤングケアラーの実態調査と課題について
2	子どもたち自身の理解と、置かれている状況の正確な把握に向けて
3	現在の家庭訪問の状況と代替の可能性について
4	先生方の研修と統一的な判断基準の設定について
5	スクールソーシャルワーカー、民生委員との連携について
6	家庭での家事や育児を支援していく三島市のサービスについて
質問事項2	不登校児童生徒に対する三島市の支援体制、今後の方向性について
具体的内容	コロナウイルスの影響もあり、全国的に不登校の子どもたちが増えております。三島市における現状と対策を伺います。
1	三島市のここ5年間の不登校の子どもたちの数の推移とそれに対する見解と課題について
2	児童生徒が不登校となった要因の把握と、学校関係者や家庭、関係機関の情報共有について
3	一人一人の児童生徒に応じたきめ細やかな支援策について
4	スクールソーシャルワーカーの関わり方と課題について
5	支援を求めてこない児童家庭へのアウトリーチについて
6	民間委託と人材活用について
7	不登校になりそうな子どもたちの早期発見と対策について
質問事項3	うつ病などの精神疾患を子どもたちと保護者が学ぶ機会づくりについて
具体的内容	不登校やヤングケアラーの問題とも深く結びついていますが、心の健康という点については、今の時代、だれもがグレーゾーンにいて、外見的には全く分からなくても様々なものを抱えているのかもしれない。テニスで有名な大坂なおみさんがうつ病を告白するなど、精神疾患は今の時代、がんと並ぶ大きな疾患でもあります。自分の体と心に向き合う時間と、頑張れないときもあるということ、ゆっくりでもいいんだというメッセージと、SOSの出し方を教えていくことも必要です。先日の静岡新聞には、中等以上のうつ的な状態の子どもが小学生で9%、中学生で13%と出ていました。爆発する前に、凍り付いてしまう前に、ちょっと一呼吸おけるような、知識と環境が子どもたちにも、そして保護者にも必要です。
	子どもたちに、精神疾患というもの、どのような時にはどんなところに相談すればいいのかなど、学ぶ機会をもつことが、これからの長い人生においても必要だと考えますが見解を伺います。
1	子どもたちへの研修について
2	保護者の方々に向けての講習会について
3	子育て短期支援事業の普及について